

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価担当	局名	創造都市推進局
	政策	文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策	文化財の保存・活用		電話番号	087-839-2660
	基本事業	文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業	高松城跡整備事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	史跡高松城跡保存整備基本計画に基づき、石垣や被雲閣など各施設の保存修理に努める。天守や桜御門などの復元に向けて資料調査を行い、復元整備に努める。				
	年度	月見櫓修理工事 その他の経費（会議費等） (補正予定) 被雲閣耐震補強工事			
	重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	4.⑤	事務事業の類型 ③インフラ・施設等整備

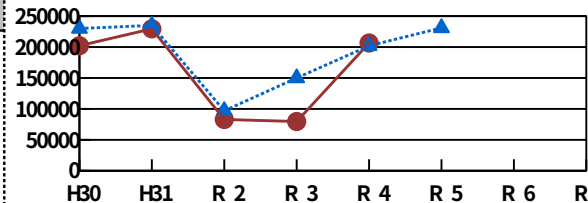
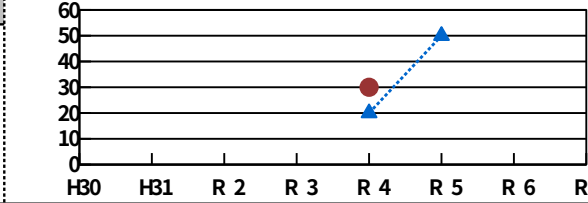
【事業の目的】

対象（何を）	市民・観光客、整備対象文化財
意図（どのような状態にしたいか）	貴重な文化財である高松城跡において、石垣や櫓の保存修理や建造物の復元整備を行い、史跡高松城跡の価値を顕在化するとともに、来場者数の増加を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
① 史跡高松城跡の保存修理・復元箇所数	箇所	3	3	3	3	3
②						

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	玉藻公園の年間入園者数	人	目標値	97,000	150,000	202,000	231,000	231,000
			実績値	82,966	79,634	206,538		
①	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 令和 4 年度の高松城跡（玉藻公園）入園者数は、昨年度と比べ大きく回復し、目標値の 102% と上回る結果となった。 (目標達成度)							(達成度) 102.2% 35点
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	被雲閣（大書院）耐震補強工事の進捗率	%	目標値			20	50	50
			実績値			30		
②	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 被雲閣（大書院）耐震補強工事実施設計を完了した。 (目標達成度)							(達成度) 150.0% 35点

【コストの推移】

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	113,038	275,224	218,954	55,170
（事業費）	〔円〕	90,592	252,574	196,502	32,718
（職員人件費）	〔円〕	22,446	22,650	22,452	22,452

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
桜御門復元整備事業、被雲閣大書院耐震補強実施設計作成、危険度 A 石垣測量等は完了した。今後とも、「史跡高松城跡保存活用計画」で示した事業を着実に実施していく。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
重要文化財被雲閣の耐震補強は、利用者の安全確保の上で最重要課題であり、早急かつ着実に実施する。月見櫓改修工事についても完了を目指す。「史跡高松城跡保存活用計画」の中で位置付けた各事業を推進していく。			

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価 担当	局名	創造都市推進局
	政策	文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策	文化財の保存・活用		電話番号	087-823-2714
	基本事業	文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業	史跡石清尾山古墳群保存・整備事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】					
事業の概要	国指定史跡石清尾山古墳群は、積石塚として全国に知られているが、築造から長い年月を経て積石の崩れなど傷みが進行している。また、史跡指定された古墳上には石棺が露出するなど、特に古墳群の保存において喫緊の課題が山積みしている。本事業では、保存と活用との両面から適切な整備を行うものとして、古墳群の適切な保存・活用を図ることを目標に事業を進めるものである。				
年度概要	調査整備会議の運営 (補正予定) 鶴尾神社 4号墳崖面補強工事 間隙水圧計更新				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	4-⑥	事務事業の類型	③インフラ・施設等整備

【事業の目的】	
対象（何を）	石清尾山古墳群
意図（どのような状態にしたいか）	既に国史跡に指定されている積石塚を適切に保存するため、範囲や構造を把握し、より適切に古墳を保存・活用する。

【事業の活動】						
活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 2	R 3	R 4	中期目標 R 5
① 調査古墳数（累積）		箇所	2	2	2	5
②						

【事業の成果】

成果指標①	成果指標名（どのような成果が得られたか）		単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	見学者数（累積）		人	目標値	1,500	1,750	2,000	3,000	3,000
				実績値	1,548	1,935	2,454		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）		パンフレットの配布等を通じて多くの市民に古墳群に興味を持ってもらうとともに、市政出前ふれあいトークや学校教育活動の一環として古墳群の解説を行うことで、目標値に達する見学者を得た。 (目標達成度) 						(達成度)
									122.7%
								35点	
		3500 3000 2500 2000 1500 1000 500 0 H30 H31 R 2 R 3 R 4 R 5 R 6 R 7							

成果指標②	成果指標名（どのような成果が得られたか）		単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
				目標値					
				実績値					
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）		(目標達成度)						(達成度)
		1 0 H30 H31 R 2 R 3 R 4 R 5 R 6 R 7							

【コストの推移】					
指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	7,482	9,601	60,472	7,624
（事業費）	〔円〕	0	2,051	52,988	140
（職員人件費）	〔円〕	7,482	7,550	7,484	7,484

【評価】			
評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
見学者数については目標値を上回ったことから、今後とも効果的な情報発信を行っていく。「史跡石清尾山古墳群保存活用計画」について、前回作成中のものの見直しを行った。なお、鶴尾神社 4号墳崖面補強工事等について、地元関係者との協議に日時を要したことにより、年度内に工事の完了が不可能となったため、5年度に繰越して実施する。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
「史跡石清尾山古墳群保存活用計画」について、令和5年度に市議会等の審議を経て策定し、その後、文化庁の認定を受ける。当該計画を基に史跡を確実に保存するとともに、古墳群の見学会や観光部門と連携した古墳群ツアーを実施するなどして、市内はもとより県内外に情報発信を行い、古墳群の文化財的価値を周知する。鶴尾神社 4号墳保存対策事業については、これまでと同様に専門家の意見を踏まえ、地元の理解を得ながら実施するものとする。			

総合計画体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価担当	局名	創造都市推進局
	政策	文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策	文化財の保存・活用		電話番号	087-839-2660
	基本事業	文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業	史跡・天然記念物屋島保存・整備事業		事業期間	平成28年度～令和4年度

戦財に及ぶ古化の程度は、戦は万々、今市を輩し、平本を輩し、源が情しい。勢務強てきた義理確したるのを施鳥のやを施屋(の)門実れる。努を城をる。備の査らい。雄略調えて。意存嶋の伝れ。存保城跡とよ保の城場建立の島山丁創指島原代切鑑に「屋」石置る。僧物あか跡す唐念でし望在記財問所城然文に十上嶋天竺の嶺鳥嶠山おけつは山代をて施か古國何可美度た日定の計を年まに定の查○指摘調3て1に書説し月休養確た1回次のつ知物も感調サ昭宏の堪説又記り確ろ外捨うてふかの度つある跡を全校で中書する。委成城徴る。蓋平嶋の在教、屋上存泉より形が定ひか象地財規及対化の上査鳥は文化なる調鳥の護といは屋塚でう

事業の概要

重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	
--------	--	----------	--	---------	--

対象（何を）	文化財としての屋島
意図（どのような状態にしたいか）	(1) 屋島の史跡等の詳細を把握し、文化財的価値を高める。 (2) 文化財である屋島の保存整備を図る。

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
① 確認調査件数（累積）	件	6	6	6		4
②						

成果指標①	成果指標名 (どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5	
	確認調査によって内容の詳細が判明した件数 (累積)	件	目標値	6	6	6	6	4	
			実績値	6	6	6			
成果指標②	成果指標の達成度 (目標に対してどれだけ達成できたか)								(達成度)
	昨年度に引き続き石切丁場跡の追加調査を実施するとともに、発掘調査報告書の刊行を行った。なお、調査場所が昨年度と同じ場所のため、調査件数は増減なし。 (目標達成度)								100.0%
									35点
成果指標③	成果指標名 (どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5	
			目標値						
			実績値						
成果指標④	成果指標の達成度 (目標に対してどれだけ達成できたか)								(達成度)

指標名	単位	令和 2年度 (決算)	令和 3年度 (決算)	令和 4年度 (決算)	令和 5年度 (予算)
トータルコスト	円	9,850	10,880	9,209	0
(事業費)	円	2,368	3,330	1,725	
(職員人件費)	円	7,482	7,550	7,484	0

評価ランク (A～D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	統合
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
屋島石切丁場跡の発掘調査成果を報告書にまとめるとともに、石の民俗資料館で展示を行い、広く周知した。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
本事業は令和4年度で終了したが、今後は調査等で得られた屋島の価値を、屋島山上拠点施設等で情報発信を行っていく。 なお、屋島における調査については文化財調査事業に統合して実施していく。			

令和 5年度（ 4年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価 担当	局名	創造都市推進局
	政策	文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策	文化財の保存・活用		電話番号	087-839-2660
	基本事業	文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業	玉藻公園整備事業		事業期間	令和 2年度～令和 5年度

【事業全体概要】					
事業の概要	「高松市公園施設長寿命化計画」に基づき、計画的に修繕等を行うことにより、持続的に安全で安心して利用できる都市公園づくりを図る。				
	高松市都市公園施設長寿命化計画修正業務委託				
年度概要					
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	④インフラ・施設等維持管理

【事業の目的】					
対象（何を）	玉藻公園				
意図（どのような状態にしたいか）	公園施設の安全性を確保し、長寿命化を図る。				

【事業の活動】							
活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
①	施設修繕等件数	件	4	4	9	10	10
②							

【事業の成果】

成果指標①	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	玉藻公園の年間入園者数	人	目標値	97,000	150,000	202,000	231,000	231,000
			実績値	82,966	79,634	206,538		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	250000 200000 150000 100000 50000 0 (達成度) 102.2% 35点						
	令和 4 年度の高松城跡（玉藻公園）入園者数は、昨年度と比べ大きく回復し、目標値の 1 0 2 % と上回る結果となった。							
成果指標②	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
			目標値					
			実績値					
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	1 0 (達成度)						

【コストの推移】					
指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	26,936	23,074	44,588	10,223
（事業費）	〔円〕	19,454	15,524	37,104	2,739
（職員人件費）	〔円〕	7,482	7,550	7,484	7,484

【評価】			
評価ランク（A～D）	A	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
屋外配線路等改修工事により、玉藻公園の景観と防災対策が向上した。引き続き、市民や観光客がより安全安心に利用できるとともに、魅力あふれる公園施設となるよう計画的に維持管理を行う。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
令和 5 年度は「高松市公園施設長寿命化計画」を見直し、玉藻公園の長寿命化に努め、市民の憩いの場として、また本市の代表的な観光地の一つとして活用していく。			

総合計画体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価担当	局名	創造都市推進局
	政策	文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策	文化財の保存・活用		電話番号	087-823-2714
	基本事業	文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業	埋蔵文化財公開活用事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

屋敷備美しし
 城、開の念知
 山々を雲隠
 代人明をに
 古く説く民
 々々地千
 はる平現たの
 にンやつく
 度々々々多
 年たへり
 7トし講
 2念生
 成マ記し定
 平又は指行
 定村園に
 たる煩悩心
 あ施加を所中
 で美徳善業を
 的を新約家信
 目元元と平
 が園文と権
 とGの蔵主情
 二〇群集薄
 の境の松す
 だ門元と園
 た城山市はに
 い尾、度群
 が清か石墳
 つほ石元古
 知た、の山
 した、尾
 丈健康度
 を開年たた石
 史を〇げは
 歴〇〇三度行
 の式々々年
 市令々々第2
 本記〇〇〇〇
 明を説く、云
 の験を美字
 つ事体情見〇
 主相備の地つ
 に元彼の等現行
 調査地のレウ組
 取調現時つジ
 化城墳、ンボ
 文跡生古ハら
 威城に、シモ
 埋鳩木、施て

事業の概要

重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型
--------	----------	---------

対象（何を）	市民
意図（どのような状態にしたいか）	市内の埋蔵文化財調査等によって得られた本市の歴史に関する市民の知識及び教養の向上に繋げる。

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
① 埋蔵文化財公開活用事業関連行事開催回数	回	27	40	49	60	60
②						

成果指標①	成果指標名 (どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
	埋蔵文化財公開活用事業関連行事参加者数	人	目標値	6,400	6,400	6,400	6,400	6,400
			実績値	6,312	6,595	8,751		
成果指標の達成度 (目標に対してどれだけ達成できたか)	令和4年度上半期は新型コロナウイルス感染症の影響により、行事開催回数はあまり増加しなかったが、行事参加者は目標値を上回った。 (目標達成度)					(達成度) 136.7%		
								35点
成果指標②	成果指標名 (どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 2	R 3	R 4	R 5	中期目標 R 5
			目標値					
			実績値					
成果指標の達成度 (目標に対してどれだけ達成できたか)	(目標達成度)					(達成度)		

指標名	単位	令和 2年度（決算）	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	9,379	9,681	9,393	12,481
（事業費）	〔円〕	1,897	2,131	1,909	4,997
（職員人件費）	〔円〕	7,482	7,550	7,484	7,484

評価ランク (A～D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
----------------	---	------------------------------	----

新型コロナウイルス感染症等の感染状況に左右されないイベント等を計画していく必要がある。

今後も、香川県や関係市町と連携しながら、効果的なPR等を実施し、イベント等への新たな参加者の誘引に努めるとともに、ICT技術等の活用により現地に行かなくても講座等が受講できる体制整備を検討していく。

○ 本稿は、2017年10月10日（水）に開催された「第10回 日本経済学会 第100回大会」で発表されたものである。